



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

《授業の導入で視聴した動画》



国連 WFP「SDGsって何だろう」

《受講した高校生の感想》

1つの問題(記事)の中に、何種類ものSDGsの目標への関わりがあることを学びました。

いつも自分が何気なくしている行動でも未来に繋がっていること、小さなことでも毎日ちょっとずつSDGsを意識することで明るい未来が待っていることがわかりました。



カードゲームを通して擬似的に体験することで、話を聞いただけの時よりもより理解が深まりました。自分が達成したいことだけをするだけでは世界が良くならず悪い方向に進むことがわかりました。そして、違う目標を持つ人達がみんな協力することで、全員にいい事があることがわかりました。

《高校生による私のSDGs宣言》



湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2022年度 第6号

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学 生活プロデュース学科

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

入学前授業「湘北スタートアップセミナー」開講

2月、湘北短期大学リベラルアーツセンターでは、4月に入学予定の高校生を対象とした入学前授業を実施しました。コロナ禍をはさみ3年ぶりに対面で実施した今回は、3日間のうちの1日を「SDGsを通して世界を知る」回とし、講義、グループディスカッション、カードゲーム、高校生による私のSDGs宣言など、盛りだくさんのプログラムを用意しました。ここではその概要を紹介します。

1. 「SDGs新聞」ワーク

プログラムの前半では、SDGsの学びの導入のための動画を視聴した後、朝日新聞社から寄贈頂いた「SDGs新聞」を使用し、新聞ワークを行いました。3、4人一組のグループごとに、気になる記事を1つ選び、繋がりがあがる17の目標の付せんを選んで各自意見を書いて貼っていきます。「SDGs新聞」の記事には、性別に関係なく好きな色が選べるランドセル、コーヒーやチョコレートを購入した消費者に海外の生産者を応援するしきみを提供するショップの取り組み、地球温暖化で魚がオス化する現象、ヤングケアラーの生の声を紹介したものなど、様々なものがありました。今回一番多く選ばれたのがランドセルの記事でした。目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」だけでなく、12の「つくる責任つかう責任」や14、15の「海や陸の環境」への配慮を指摘した意見もありました。グループで話し合った後は、代表がクラス全体に発表しました。



社会課題をSDGsという「ものさし」を使って見てみると、ある目標達成にはポジティブな影響を与える一方で、別の目標達成にはネガティブな影響を与えることや、逆に、1つの目標を解決すると、他の複数の目標解決にも繋がっていくことなどの発見がありました。

2. 「2030SDGsゲーム」体験

プログラムの後半では、2人組のチームを作り、「2030SDGsゲーム」を体験しました。参加者全員が世界の一員となり、与えられたお金と時間を使って様々なプロジェクトを実行し、各チームが異なるゴールの達成を目指し、2030年まで活動します。手元のプロジェクトを行うと、経済、環境、社会に対してプラス、あるいはマイナスの影響を与え、黒板上のマグネットで表された「世界の状況メーター」が時々刻々と動くため、他のチームとの交渉や協力も欠かせません。経済状況を示す青色のメーターが過熱気味で迎えたゲーム後半戦では、社会や環境の状況を変えようと積極的に動き出すチームが現れると一気に流れが変わり、最初は知らない者同士だった高校生たちが活発にコミュニケーションをとり始めます。国連や官公庁、企業の研修でも実施されているこのゲームは、大人から子どもまで、SDGsが生まれた意味やその可能性について気づくことができるよう設計されていますが、それに加えて、チームビルディングの効果も実感できました。



(文責 築瀬)



ファッションから考える SDGs 「ファストファッション」という言葉を聞いて何を連想しますか？「ファッション」を通じて私たちのライフスタイルを見直してみませんか？そのきっかけになりそうな動画を2つ紹介します。



環境省
「これからのファッションを
サステナブルへ」



BBC (英国放送協会)
「ファストファッションが
環境に与える影響とは」

《特別寄稿》

思い出の着物を洋服にリメイク

生活プロデュース学科 ファッションコース 講師 三塚由美子

私の実家には亡くなった母の古い着物がたくさん残っています。袖や訪問着などの高価なものはそのまま置いてありますが、50年ほど前の一重の着物や踊りのお稽古用に着ていた安価なものもたくさんありました。今回は、一重で安価な着物を思い切ってリメイクしてみました。



向かって左側は、無地の一重をスプリングコートに仕立て直したものです。と言っても、着物から衿をはずし、裾の部分を好みの長さに裁ち、その部分で襟を作り変えたデザインです。袖は少し細めにアレンジしました。おくみの部分がそのまま打ち合わせになっています。くすみボタンにして、小さな布端も余すところなく利用しました。

青いワンピースは縮緬の布地でできています。衿と袖をはずし、前後を同じ形に作り変えています。上からかぶって着られるように、穴をあけてパイアステープで処理し、はずした衿をリボンにしてウェストに巻いてみました。右側の2点は、着物をすべてばらばらにし、洋服のパターンを使ってミシンで作成したものです。普通のお洋服とあまり変わりません。皆さんのお宅にも、古くなって着ない着物があったら、ぜひチャレンジしてみませんか？SDGsの12番、「つくる責任、つかう責任」—日本の着物は、最終的には土に帰る素材でできています。捨てる前にもう一度、新たな使い道を考えてみましょう。 ※ここでは「衿」は和服、「襟」は洋服と使い分けています(発行人)

湘北短大紹介リーフレット



湘北あつぎ SDGs クイズ



厚木ガス「ガス展」に参加しました

広報部 学生募集課 熊谷裕子

2022年10月28日(金)~10月30日(日)、厚木瓦斯株式会社のショールームで行われた「ガス展」のイベントコーナーに本学が出展、SDGsの取り組みや学びの成果を紹介いたしました。

生活プロデュース学科フードコースの活動を「タウンニュース」で知った、本学卒業生の厚木ガス社員の方にお声がけいただきました。今年度、「食の企画と演出」の授業では、学生が焼き菓子や地元野菜を使った料理を考案しました。その成果として作成したレシピを配布しました。



10月に「あつぎ SDGs パートナー」に登録された厚木ガスさんと本学。「ガス展」特別企画として、「湘北 あつぎ SDGs クイズ」を学生が作成しました。会場では家族連れをはじめ多くの方が参加され、厚木市のSDGs活動について楽しく学んでいただきました。

来場者の中には、本学の卒業生や、ご家族が卒業生だという方もいらっしゃり、厚木ガスさんが地元で根差した企業であることを知るとともに、本学も地元の方々に支えられてきたことを実感しました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

